

学習成果を発信するための学校 Web サイト構築の全校体制

笹原 克彦^{*1} 高橋 純^{*2} 堀田 龍也^{*3}

概要 地域や保護者を対象に、生活科・総合的な学習の時間の学習成果をまとめた Web サイトを構築した。Web 構築の体制づくり、学習活動の記録や画像の蓄積等を工夫することで、高い外部評価を得られる Web サイトを、全校体制によって構築することができた。

キーワード 学校 Web 情報公開 総合的な学習の時間 生活科 学習成果

1. 研究の背景と目的

富山市立寒江小学校では、更新体制の工夫や Contents Management System(以下 CMS と記す)の導入によって、学校 Web の日常的な更新を行ってきた^[1]。また、学習の成果を地域に発信するために、学習活動の概要や児童作品、年間カリキュラム等で構成した Web ページを公開してきた。単学年による大豆をテーマとした総合的な学習の成果をまとめた Web ページ^[2]は、第 12 回マイタウンマップコンクールで内閣総理大臣賞を、また、全教職員による生活科、総合的な学習の時間の学習成果やカリキュラムをまとめた Web ページ^[3]は、第 13 回同コンクールで経済産業大臣賞を受賞するなどの評価を受けた。

学校 Web サイトの開設は、学校情報を公開する有効な手段として普及しつつある。しかし、Web 更新は、校務の中で最も負担感の大きい業務となっている^[4]。また、頻繁に更新を行う学校の情報は、日常的な児童、生徒の活動であることが多く、特定の教科、領域の学習成果やカリキュラムなどの情報を、全校体制でまとめて発信している学校はあまり見られない。

教師が負担感を感じることなく、年間を通した学習成果をまとめた Web ページ(以下「学習成果 Web」と記す)を公開することができたなら、有効な情報公開の手段となる。学習成果 Web を作成するには、多くの時間と労力を必要とすることは容易に想像できるが、それを効率よく全校体制で行う方法を示すことは、学校 Web の普及に役立つ知見となる。

本研究では、外部から高い評価を受けた富山市立寒江小学校の Web サイト「人がすき まちがすき わたしたち寒江っ子」を事例に、学習成果 Web を全校体制で構築する際のプロセスと工夫について明らかにする。

2. Web サイト構築のプロセスと工夫

寒江小学校では、全教職員で学校 Web の更新を行ってきた。学校 Web は CMS によって運営されており、日々の更新の全てが時系列順に蓄積されているため、特定の教科、領域の学習成果を一覧するには不適切であった。そこで、学習成果 Web は、独立した Web サイトとして作成し、学校 Web からリンクして公開することにした。学習成果 Web の構築は、以下のようなプロセスで行った(図 1)。

(1) サイト設計の考え方の共有

年度当初に、サイト構成を決定した(図 2)。その際、以下の点に留意した。

学習成果 Web サイトは、日常的に更新を行う学校 Web とは別に設け、それ自体で完結させる。

学校カリキュラムとして系統性のある、生活科、総合的な学習の成果を内容とし、全校体制でサイト構築を行う。

各学年ページには、以下の内容を掲載する。

・学習活動

年間の学習活動の流れがわかるように、学

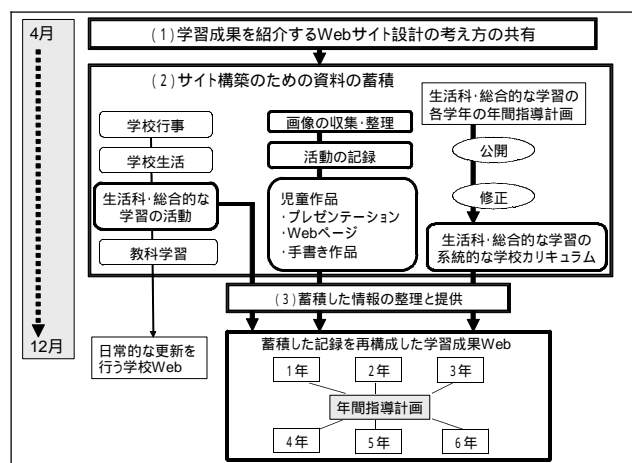


図 1 学習成果 Web 構築のプロセス

*1 SASAHARA, Katsuhiko : 富山市立山室中部小学校(〒939-8022 富山市山室荒屋 162-2)

*2 TAKAHASHI, Jun : 富山大学人間発達科学部(〒930-0887 富山市五福 3190)

*3 HORITA, Tatsuya : メディア教育開発センター(〒261-0014 千葉県美浜区若葉 2-12)

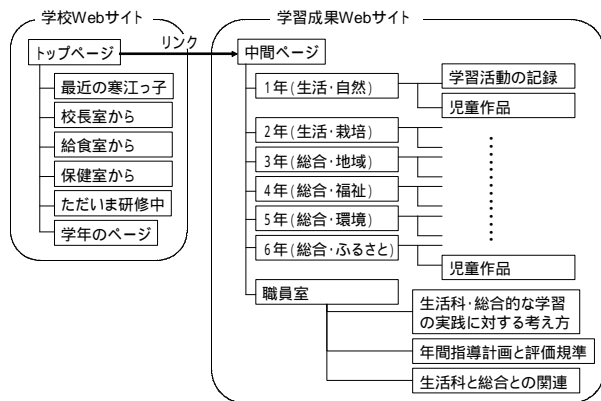


図2 富山市立寒江小学校のサイト構成図(2007年3月現在)

習の記録を時系列順で紹介する。

・児童作品

学習の過程で作成した児童作品を、中間ページを設けて掲載する。

職員室の Web ページには、以下の内容を掲載する。

・学習成果 Web の制作・公開の主旨

地域や保護者を対象に、学習成果 Web を制作した目的を提示する。

・年間指導計画と評価規準

年度当初の計画を公開し、変更があった場合は、逐次修正を行う。

・生活科と総合的な学習の系統性

生活科と総合的な学習の内容、評価規準等の系統性を提示し、学校カリキュラムとしての考え方を明らかにする。

(2) サイト構築のための情報の蓄積

(1) で示したサイト構成を年度初めに全教職員に提示し、以下のように活動記録の蓄積に留意しながら実践を進めることを確認した。

Web ページの制作に必要な画像や児童作品は、活動中にできるだけたくさん収集する。

学校 Web の更新の際に、学習成果 Web での活用を想定して、活動の記録を蓄積する。

(3) 蓄積した情報の整理と提供

表1 提供された学習記録等の情報と作成ページ数

担当	担当者から提供された情報			再構成した学習成果 Web		
	学校 Web への蓄積データ	文書ファイルによる記録	児童作品	提供された画像数	作成ページ数	使用した画像数
1年			手書き作品を撮影した画像データ	593	7	133
2年				347	4	28
3年			手書き作品を撮影した画像データ	126	4	74
4年				368	5	48
5年			プレゼンテーション	96	5	16
6年			手書き作品のスキャンデータ 作成 Web データ	415	9	80
職員室				457	10	0

¹児童が作成したページは含まない。

²職員室ページには画像は使用していないが、撮影されたデータの一部を各学年ページに使用した。

実践が進んだ段階で、全教職員で以下の情報を整理し Web 管理者に提供した。

学習の流れを記した文書ファイル

活動の際に取り集めた画像

児童作品

年間指導計画と評価規準

Web サイト公開の主旨

Web 管理者は、提供された4月～12月までの蓄積情報を再構成して、学習成果 Web サイトを構築した。

3. 結果と考察

年度当初に全教職員でサイト構成を理解しておくことによって、サイト構築の際に必要な活動記録や画像の蓄積が十分に行われた(表1)。

12月25日～1月8日の2週間で学習成果 Web サイトを作成した。サイトのデータ量は、44ページ(サイトトップページを含む)フォルダ数138、ファイル数1560、データサイズ79.2MBに及んだ。各担当者によって時系列順に整理された学習記録や画像を再構成することによって、比較的短時間に大量のデータを Web 化できた。

学校 Web に活動記録を更新してきた学年は、日頃から蓄積されたデータを活用できたため、他学年よりも情報量が充実しており、効率よく多くのページを作成できた。

4. 結論

以下のようなプロセスでサイトを構築することによって、全校体制で学習成果 Web サイトを構築することができた。

(1) サイト設計の考え方の全職員による共有

(2) サイト構築のための記録、画像等の蓄積

(3) 蓄積情報の整理と Web 担当者への提供

参考文献

[1] 笹原克彦, 高橋純, 堀田龍也, 清水悦幸, 伊藤博康, 笹田森(2004): 「学校 Web の日常的更新のための Web サイト構造と教員の協力体制」, 日本教育工学会第20回全国大会講演論文集(東京大会), pp1043-1044

[2] 笹原克彦(2006): 「大豆がささえるわれわれのくらし」,
<http://www.tym.ed.jp/sc81/2005/gakunen/5nen/index.htm>

[3] 小西はるみ, 加藤佳子, 笹原克彦他(2007): 「人がすき まちがすき わたしたち寒江っ子」,
<http://www.tym.ed.jp/sc81/2006/index.html>

[4] 石塚丈晴, 森下誠太, 堀田龍也(2004): 「社会的に高い評価を受けている学校 Web ページに関する調査」, 日本教育工学会研究報告集, JSET04-3, pp.33-38